

## 木岡哲学塾 予定表 (2020 年度秋期)

### 9.2 欲望の論理

現代社会のハイテク化を加速する原動力——〈欲望〉。資本主義と欲望の関係、〈欲望の論理〉の実体を解明して、シリーズの導入とする。

### 9.16 風景の論理

場所ごとに異なる「世界の見方」を表す風景。同一的知覚ではない風景が、いかに成立し、発展変化するかをあとづける、風土学の認識論を紹介する。

### 9.30 〈かたち〉の論理

風景経験の構造図式は、〈かたち〉と〈かた〉の相互媒介を表す。この図式を、戦前に着想された「形の論理」のリメイク版として仕上げることで、開かれる展望を明らかにする。

発表：田中 聡

### 10.14 技術と人間

大量生産・大量消費の要請に沿う近代産業とテクノロジーに代わる選択肢として、伝統文化に息づく〈かたちの論理〉を活かした技術の方向性を提示する。

発表：浦 靖宜

### 10.28 風土の論理

風土は、近代の均質空間と対立する「差異の空間」(ルフューヴル)である。その生成と構造を、「物語空間」「社会空間」「普遍空間」の三段階に分け、それぞれの性格を粗描する。

発表：高橋勝幸

### 11.11 日本人と哲学

philosophy の輸入から始まった近代日本の「哲学」。明治以前に日本の哲学が存在したとすれば、その哲学はどういうものか。なぜ、それだけでは不十分なのか、を考える。

発表：黄 志博

### 11.18 邂逅の論理——西洋と日本の〈あいだ〉

〈他者〉である西洋との邂逅から始まった日本の「近代」。たがいに異なる西洋と日本の〈あいだ〉を開くために、何が必要なのかを追究する。

発表：船曳秀隆

### 12.9 瞬間から時間へ

時間意識を支配する「瞬間」の観念。仏教由来の「刹那」を「瞬間」と突き合わせることによって、東西両文明の根本性格、相違点と共通点を明るみに出す試み。

#### 12.23 総括討議——風土学の意義を問う

最終回として、風土学講義の全体をつうじて得られた認識、疑問点を各自が語り出し、全員による徹底討議を進める。

(1～3月は休み)